

第2回 洋上風力発電調査研究協議会 議事メモ

日時：令和4年7月6日（水）13：30～15：30

場所：いちき串木野市防災センター

■参加者

●委員

串木野市漁業協同組合 代表理事組合長	早崎 達哉
鹿児島県漁業協同組合 串木野市島平支所 支所運営委員長	迫田 洋則
羽島漁業協同組合 代表理事組合長	平石 良博
市来町漁業協同組合 代表理事組合長	大久保 光朗
いちき串木野市まちづくり連絡協議会 本浦地区まちづくり協議会長	大里 章裕
いちき串木野市まちづくり連絡協議会 支え合う川南みんなの会長	米園 仁志
いちき串木野市地域女性団体連絡協議会 会計	小原 文子
いちき串木野市地域女性団体連絡協議会 川南地区部長	宇都 トミ子
いちき串木野商工会議所 会頭	川崎 弘一
NPO 法人鹿児島いちき串木野観光物産センター 理事長	久木山 睦男
甕島商船(株) 取締役海務部長	石原 義三
南薩砂利(株) 代表取締役	北山 和博
鹿児島県エネルギー政策課 主幹兼係長	石塚 大地
いちき串木野市 副市長	出水 喜三彦
いちき串木野市 企画政策課長	北山 修
いちき串木野市 水産商工課長	後瀧 健太郎
いちき串木野市 都市建設課長	吉見 和幸
いちき串木野市 市民生活課長	久保 さおり

●事務局

いちき串木野市 企画政策課 企画政策課長補佐（兼）エネルギー・企業立地係長	大平 博喜
いちき串木野市 企画政策課 主任	十島 航

●委託事業者

株式会社建設技術研究所 東京本社資源循環・エネルギー部 グループリーダー	齋藤 大樹
株式会社建設技術研究所 東京本社資源循環・エネルギー部 主任	五十嵐 知宏
株式会社建設技術研究所 東京本社資源循環・エネルギー部 技師	中村 昌平
株式会社建設技術研究所 東京本社資源循環・エネルギー部 技師	児島 大貴
株式会社建設技術研究所 東京本社資源循環・エネルギー部 技師	松田 知夏

■欠席者

いちき串木野市シティセールス 課長	長崎 崇
-------------------	------

1. 開会
2. 挨拶
3. 協議事項

1 調査の目的及び協議会のスケジュールについて

委員 ゾーニングマップとはどのようなものか。

事務局 各種調査に基づき、社会的・法的・環境的制約条件を整理し、洋上風力発電事業の実施が可能である範囲をマップで示すものである。

2 調査の概要について

委員 6月上旬の新聞に洋上風力発電による低周波がレーダー等への影響を及ぼす恐れがあるという記事が掲載されていた。

 本地域においては、甕島の航空自衛隊の基地に警戒管制レーダーが設置されている他、国の基地建設の検討に影響を及ぼすことはないのか。

事務局 洋上風力発電事業に起因する、低周波による被害や通信障害への影響について、国が整理している文献情報を収集整理し、研究協議会の中で報告したい。

委員 共同漁協権内で海砂を採取しており、漁業権内に洋上風力発電設備を設置することで、海砂の採取へ大きな影響があるのではないかと心配している。

 海砂の採取地点に、風車が建設された場合、海砂が採取できなくなり、南薩砂利（株）や漁協が経営困難な状況に陥るため、利害関係者とよく協議を行ったうえで検討を進めてもらいたい。

事務局 洋上風力発電事業によってどのような影響が生じるのか、メリット・デメリットともにしっかりと調査し、結果を示したい。また、関係者へのヒアリング等の実施により、具体的な課題等を把握したいと考えている。

事務局 洋上風力発電事業の実施に向けて懸念される事項を調査によって明らかにし協議会の委員へ共有し、協議会を進めていきたい。

4. 講話

委員 浮体式の風車を係留するチェーンにイセエビが住み着いているという話があったが、洋上風力発電事業を計画している事業者の説明の中では、潮の抵抗等による風車の倒壊を防止するため、カキなどがつかないようにするため、風車自体には漁礁効果がないとのことであった。実際に漁礁効果があるのか。

- 講師 理論上は、風車を係留するチェーンにイセエビがたくさん付着すると倒壊につながる恐れがあるため、取り除く必要があると考えられるが、実際には付着していても問題は発生していない。
海は、オーダーメイドであり、場所によって状況が異なるため、その場所の海を実際に調査しないとわからない。
- 委員 五島の浮体式の風車には魚が集まっているという話があったが、洋上風力発電事業を計画している事業者から風車の設置場所から 200 m程度は操業禁止になるという説明を受けているため、風車に魚が集まっても漁業者にはあまりメリットがないのではないかと。
- 講師 五島の場合では、風車のブレードの長さにあたる半径 40~50m程度の範囲については、安全のため操業禁止になっている。
風車の周囲が操業禁止となっても誘導漁礁等の設置により、問題解決が可能であると考えており、五島でも実証を行っている。

5. その他

- 委員 現在、いちき串木野市の海域で洋上風力発電事業を計画している 3 事業者と 4 漁協で検討会や勉強会を実施し、洋上風力発電に係る勉強を行っている。また、3 事業者が各種調査を行っており、低周波等については各事業者に宿題を出している。今後、各事業者の調査結果をもとに協議を進めていく流れとなっているため、現状では、洋上風力発電の可否について、役員会や総会で何う段階には至っていない。
また、事業者との検討会や勉強会に行政が参加することはあるのか。
- 事務局 検討会等へ参加する予定はないが、情報共有いただき、連携を密にさせていただきたい。
- 委員 羽島漁協はちりめん漁が生業である。風車が建設されることによって、ちりめん漁が妨害される恐れがあり、それらの点について協議がないままに洋上風力発電事業が進めば、組合員が生計を立てられなくなる。
また、羽島漁協は組合員も少なくなっており、ちりめん漁以外の生業に移行することは困難であると考えている。各漁協の組合員がどのように生計を立てている等、全体像をよく踏まえた事業の進め方の検討を行ってもらいたい。
- 委員 4 漁協がそれぞれ問題を抱えている中で、どのように洋上風力発電事業を進めていくのか、漁業者と膝を突き合わせて問題をどう解決するか協議する機会を設けてもらいたい。

- 委員 海砂の採取は、漁協や行政の協力の下、長年生業としている事業である。可能であれば、海砂の採取を長く続けていけるような環境を整備していただきたい。
- 事務局 今後、洋上風力発電事業に係る調査を実施し、調査結果を示していく中で、さまざまな意見が出ると考えており、それらをどのように解決してくのか、解決できないのかといった点について本格的に議論することになる。
- 委員 事業者と漁協との検討会に係る情報提供や本協議会の分科会の協議内容等も踏まえて、議論を深めることができると考えている。本協議会では、洋上風力発電事業を進めるということではなく、この議論を進めさせていただきたい。
- 委員 エネルギーの問題の重要性は理解しているが、漁業へどのような影響があるのかと考えるとなかなか前へ踏み出せないという現状がある。
- これまで、漁業への影響に関する情報をあまり得ることができていなかったため、協議会を通してさまざまな情報を提供していただき、議論していきたい。

6. 閉会

以上